

伊豆太陽



なんすん



特産「ハウスみかん」品質良好 目ぞろえ会で規格統一を徹底

伊豆太陽地区本部ハウスみかん部会は7月下旬から8月にかけて、ハウスみかんの最盛期を迎えています。

6月15日には河津町で目ぞろえ会を実施。サンプルを手に取り、着色度合いなどの規格を確認しました。

同部会のハウスみかんは「しづおか食セレクション」認定の高品質なみかんです。今期も平均糖度が12~13度と品質は良好。8月下旬まで出荷が続きます。今期から出荷資材のパッケージデザインを一新し、新たに作成したロゴマークなどを表記しています。



サンプルを手に取り出荷基準を確認する
生産者とデザインを一新した出荷箱

富士宮



手作り弁当で子どもたちを応援

女性部の食育ボランティア活動で提供

女性部富士宮地区本部は、食育ボランティア活動として、富士宮市社会福祉協議会の生活困窮者自立支援事業の学習支援「にじっこ」の子どもたちに手作り弁当を提供しています。

女性部員が栽培した旬の食材を持ち寄り、毎回部員が栄養バランス良く、食べ応えのあるメニューを考案。6月9日には新ジャガイモのポテサラダや新タマネギフライ、たけのこの煮物、グリーンピースご飯などを詰め合わせた約30個の手作り弁当を提供しました。



旬の地場農産物を使った女性部員特製弁当

御殿場



タマネギの目ぞろえ会

農業所得の安定と向上に向けて高値販売へ

御殿場地区販売課は6月9日、タマネギの目ぞろえ会を開き、生産者やJA、県東部農林事務所、市場関係者など約20人が参加して乾燥状態や大きさなどの基準や出荷方法を確認しました。

地区販売課職員は「今年は北海道をはじめ他産地が不作。当地区は冬場の低温傾向により若干小玉が多いが、小玉が好まれる市場へ出荷するなど、高値での販売に力を入れていく」と話しました。今期は約12トンの出荷を見込んでいます。



乾燥状態や大きさを確認する生産者とJA職員ら

8地区



管内19市町に経営安定に向けた緊急要請 農業生産資材価格高騰に伴う農業経営の実情を説明



梶毅専務(左から2人目)などJA役職員が勝又正美御殿場市長(右から2人目)を訪問(6/16)

当JAでは、新型コロナウイルスによる農産物価格の低迷やロシアのウクライナ侵攻の影響による肥料・飼料、燃油などの価格高騰を受け、さまざまな対策を講じています。

農業所得を守り、持続可能な農業経営に寄与するには市町とJAが一体となって対策に取り組むことが必要と判断。6月6日~30日にかけて、既に対策検討を始めた行政を除く管内19市町に農業生産資材価格高騰等への対策に関する緊急要請書を提出しました。

常勤役員と担当職員が各市町の首長を訪問。6月16日には梶毅専務や蜂屋幸販売部長など役職員が御殿場市と小山町を訪問し、農業資材等価格高騰に伴う農業経営への影響など実情を説明しました。

梶専務は「農家にとっては早い対応が必要。ぜひさらなるご支援をお願いしたい」と訴えました。

■ JAふじ伊豆における緊急対策

- ・高品質肥料の安定供給と値上げ前商品の前倒し供給
- ・「JAふじ伊豆特別価格肥料」の提案
- ・適正成分の施肥を目的とした土壌診断、土壌分析の実施・施肥設計の提案
- ・土壌診断、土壌分析にかかる費用の一部助成
- ・各種農業融資に対する相談受付



藤沼和明常務(右)から山下正行伊豆の国市長に
緊急要請書を提出(6/20)



清信昭常務(右手前)が
須藤秀忠富士宮市長(左手前)を訪問(6/10)

各地区の話題をお届け

ふじ伊豆 トピックス

FUJI IZU TOPICS

伊豆の国



なんすん



伊豆の国苺委員会が総会

販売額前年差1億200万円増

伊豆の国苺委員会は6月20日、令和3年度産総会を伊豆の国地区本部で開きました。同委員会役員やJA役職員らが出席し、3議案を承認・可決しました。

今後は販売額17億円を目指し事業を実施。生産面では適切な栽培管理により収量が伸び、販売面でも市場との密な情報交換、計画納品の遂行により安定した売り場を確保。直接販売事業も新規受注や関係機関と連携して実績向上につなげ、結果、前年差1億200万円増の17億3,600万円の実績を挙げました。



飯田委員長が「取引先との信頼をさらに高めたい」とあいさつ

富士宮



世界遺産富士山基金に役立てて う宮茶(うみや~ちゃ)売上金の一部を市に寄付

富士宮地区本部は令和元年から地域貢献の一環で、富士宮産茶葉100%の緑茶飲料「う宮茶」の売り上げの一部を富士宮市の世界遺産富士山基金に寄付しています。

本年度は5月25日に、深澤俊光地区本部長をはじめ同地区職員が富士宮市役所を訪れ、12万8,310円を寄付金として須藤秀忠市長に手渡しました。

深澤本部長は「地域のために役立ててください」と話し、須藤市長は「皆さんの厚い志に感謝し、有意義に活用します」と感謝を述べました。



須藤市長(右から2人目)と富士山基金寄付で
地域貢献の継続を誓う深澤本部長(右から3人目)

富士



子育て支援教室で親子の絆深める JA支店でリトミック開催

富士地区本部は6月15日、未就園児と保護者が楽しながら仲間づくりや子育ての悩みを共有する「子育て支援教室」を富士市の今泉支店で開催しました。

参加者たちは、リトミック講師の高屋敷美穂さんの指導のもと、音楽に合わせてリズムを取り、楽器やおもちゃを使った遊びや絵本の読み聞かせなどを体験。親子の絆を深めました。JAはリトミックと親子体操あそびをテーマに、コロナ対策を徹底しながら全10教室を富士地区のJA各支店を持ち回りで開催しています。



楽器やおもちゃを使って遊ぶ親子

※リトミックとは音楽教育の手法のことです。

伊豆の国



伊豆市の生産者が多数受賞

県しいたけ生産者大会で品評会等表彰式

6月30日、静岡県椎茸産業振興協議会主催の第59回静岡県しいたけ生産者大会が伊豆市の中伊豆ワイナリーシャトーT.Sで開かれました。

会長を務める菊地豊伊豆市長や県内の生産者、県・市町行政、団体関係者らが出席。椎茸産業功労者表彰や県乾しいたけ、生しいたけの各品評会の表彰式などが行われました。

表彰式では伊豆市の生産者の方々が多数受賞されました。主な入賞者は次の方々です。

敬称略

■ 令和4年度椎茸産業功労者表彰

森野 弥寿次

■ 第71回静岡県乾しいたけ品評会

農林水産大臣賞	朝香 博典(天白どんこ)
林野庁長官賞	鍵山 博民(茶花どんこ)
林野庁長官賞	石井 猛(香信)
静岡県知事賞	小柳出 勝(どんこ)
静岡県知事賞	鈴木 紀矢(香こ)

■ 第32回静岡県生しいたけ品評会

静岡県知事賞 堀江 富男(露地栽培の部)



菊地市長(上写真右)から農林水産大臣賞の伝達を受ける朝香さん(上写真左)と
椎茸産業功労者として表彰された森野さん(下写真左)

三島函南



JA職員が農業体験学習アドバイザーとして活動

農業体験で心の豊かさ育む



JA職員(中央)にサトイモの植え付けを教わる生徒たち

三島函南地区本部は本年度から、三島市青少年相談室へ農業体験学習アドバイザーの派遣を始めました。

同市内の相談室を利用する児童・生徒の総合的な学習として、自然観察や体験学習を通じて心の豊かさを育んでいきます。

6月2日には、三島市民生涯学習センターで生徒約10人と同アドバイザーを務めるJA職員がサトイモの種芋を植え付けました。参加した生徒は「農業は知らないことばかりだと感じた。今まで経験したことのない農作業にふれて楽しかった」と笑顔を見せっていました。

同地区本部は収穫予定の11月まで計3回訪問し、児童・生徒たちと追肥や土寄せなどの栽培体験を実施しています。

あいら伊豆



特産「アイランドルビー」で料理学ぶ 女性部が女性講座を開講

女性部あいら伊豆地区本部は6月28、29日、女性講座第1回料理教室を三の原・下多賀調理室で開きました。

地産地消などSDGsの取り組みの一環として、クッキングトマト「アイランドルビー」を使った料理に挑戦。講師のJA静岡厚生連・山口友里先生からトマトみそミートライスや豆腐トマトソースのラザニアなど計4品を教わりました。受講生からは「『アイランドルビー』を使うと色が良く味も濃くてとてもおいしくできた」と好評でした。同講座は年8回開催します。



山口先生(左)に「アイランドルビー」のレシピを学ぶ部員

御殿場



生産資材価格高騰対策で肥料講習会 生産者・市町・JA職員が参加

御殿場小山中核農業者協議会施設園芸部会は6月15日、生産資材価格高騰対策として肥料講習会を御殿場地区本部で開き、部員や御殿場市、小山町、JA職員ら13人が参加しました。講師に、農業資材開発会社の代表を招き、同社の肥料や資材などの説明を受けました。

勝亦健太部長は「多方面との情報を共有し、良いものは取り入れていきたい」とし、御殿場地区営農課は「昨今の農業資材の高騰は生産者にとって死活問題。新資材の導入を前向きに検討していきます」と話しました。



講師(左)から資材の説明を受ける参加者

富士



今期はシキミ約40万本を出荷予定 新盆需要に備え規格確認

富士地区しきみ部会は5月18日、新盆の需要に備え、仏事用に使われる3年生の根付きシキミの出荷規格統一を図る目ぞろえ会を部会員の畠で行いました。

生産者やJA職員の約30人が参加。樹形や葉の色、高さなどがそろった50本を選別して箱に詰め、出荷基準を再確認しました。本年度は約40万本の出荷を見込んでいます。渡邊栄次会長は「手間ひまかけて育てたシキミが高品質の状態で消費者の手元に届くよう、調整作業を徹底しよう」と呼びかけました。



部会員に出荷基準を説明する渡邊会長(右)

あいら伊豆



イチジクの時季到来 6月に園地巡回で生育確認

あいら伊豆地区いちじく部会は、8月から10月下旬にかけてイチジクの収穫時季を迎えます。

6月16日には園地巡回を行い、生育状況を確認しました。部会員7人と地区営農販売課職員で7カ所を巡回し、栽培に関する情報交換を行いました。

営農販売課職員は「順調に生育しています。収穫期に向け害虫の被害が多くなるので適期防除を行ってください」と呼びかけました。イチジクは近在市場に出荷の他、「いで湯っこ市場」でも販売しています。



部会員や営農販売課職員が生育状況を確認

三島函南



専門学校生がレシピ考案 箱根西麓三島野菜の魅力発信

学校法人鈴木学園中央歯科衛生士調理製菓専門学校では、三島函南地区のブランド「箱根西麓三島野菜」の魅力を発信しています。

6月15日、学生考案の地元野菜のレシピ審査会を開き、三島馬鈴薯などを使った「三島のおいもサンド」など最終審査を通過した5点の調理・試食による評価が実施されました。優秀なレシピは三島市や同校のウェブサイトで動画公開の他、生産者を招待して試食会、学生レストランでの販売を計画しています。



地元野菜を使ったレシピ審査会で調理する専門学校生

富士



初の販売会は15分で900本完売 富士山麓わくわくコーン人気

富士地区の富士ブランド認定品「富士山麓わくわくコーン」は高糖度トウモロコシとして高い人気を得ています。今年度は生産者30人が8月下旬まで13万本の収穫を目指して栽培しています。

6月11日には収穫期を迎える、富士地区本部営農販売課が道の駅「富士川楽座」で初販売会を開催。開店前から長い列ができる、早朝に収穫した900本が販売開始15分で売り切れ、追加分を含めて計1,600本が完売する大盛況な販売会となりました。



初販売会は開店前から長い列ができるほど大盛況

伊豆太陽



生活に役立つ小物作り 女性部がじゃばらカード・手帳ケース制作

女性部伊豆太陽地区本部の「手芸クラブ」は6、7月、同地区4支部でちりめん生地を使った「じゃばらカード・手帳ケース」作りを行いました。ポイントカードや診察券、おくすり手帳が入るサイズのケースで、普段の生活に役立てています。

6月16日には部員28人が参加。型紙に合わせて生地を切りアイロンで折り目を付け、生地を縫い合わせて完成。参加した部員は「家でも作って上手くできたら友達にプレゼントしたい」と話していました。



生活指導員の職員(右)に教わり制作に挑戦する部員